

連続講座「京を発掘！出土品から見た歴史」 第 6 回

聚楽第武家屋敷出土の金箔瓦—大和の城郭・寺院との比較検討—

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 山下 大輝

1. はじめに

金箔瓦は、織田信長、豊臣秀吉が実権を握った「織豊政権」下に登場し、城郭などの屋根を彩った瓦です。特に京都では、豊臣秀吉が築城した聚楽第跡、伏見城跡の発掘調査において大量の金箔瓦が出土しています。

今回は聚楽第武家屋敷から出土した金箔瓦と、奈良県の城郭や寺院の瓦とを比較し、そこからわかったことをお話します。

2. 聚楽第について

○基礎情報 (表 1)

豊臣秀吉が天正 14 年 (1586) に築城を開始、その翌年に完成した石垣と堀で囲われた平城。「城郭構造系譜としては室町時代の足利将軍家の居館「花の御所」、「御城」という方形館・城郭」(中西 2013)。天正 19 年 (1591) には秀吉の甥 豊臣秀次に譲渡されるも、秀次の失脚により、文禄 4 年 (1595) には破却。

○聚楽第の範囲 (図 1)

さまざまな復元案が示されている (森島 2001・馬瀬 2005)。最近では発掘調査以外に、表面波探査などを行っている。

○聚楽第の金箔瓦

★金箔瓦出土数ベスト 3 (図 2)

- 第 1 位 聚楽第本丸東堀 (現：西陣ハローワーク) … 総数 (1000) 点！以上
- 第 2 位 聚楽第周辺武家屋敷 (上京中学校) … (702) 点
- 第 3 位 聚楽第周辺武家屋敷 (新町小学校) … (650) 点

軒瓦の型式分類、他城郭との文様の共通性 (同文・同範関係) などが研究され (森島 1993・1994)、家紋瓦から大名家の検討が行われている (森島 1994・2001)。

3. 大和郡山城について

○基礎情報 (表 1)

西ノ京丘陵の南端部に位置する平山城 (図 3・4・5)。天正 8 年 (1580) に筒井順慶が築城し入城。天正 13 年 (1585) に豊臣秀吉の弟 豊臣秀長が大和・紀伊・和泉の 100 万余石で入封。本格的な城郭としての骨格は、秀長によって形成されたと考えられる。その後、豊臣秀保、増田長盛と城主を変え、江戸時代には水野、松平、本多・柳澤家と徳川譜代大名が城主となる。

○大和郡山城の瓦

これまでの発掘調査で出土した軒瓦の型式分類が行われている (山川 1995・1999)。2014 年に、天守台を発掘調査した際に、金箔瓦が初めて出土した (十文字 2015・2016)。また聚楽第出土の軒平瓦との類例が指摘されている (森島 1993・山川 1999)。

4. 聚楽第大名屋敷界隈出土軒平瓦と大和郡山城出土軒平瓦の同範照合

○同範とは…?

- ・軒瓦の瓦当文様を形成する際に瓦範 (木製) を打ち込む
→瓦範を使い続けると…傷む → キズができる = 「範傷」
- ・範傷が見当たらない場合…
→文様の間隔や特徴を丁寧に観察する

同範であれば…
2 つの軒瓦は、その瓦範を持つ「瓦工人 X」の造瓦である。ということが言える。

○同文 (同文様) 異範とは…?

- ・同範照合の結果、範が同一でないもの。
→文様構成が全て同一であるもの … 「同文」
中心飾が一致、もしくは酷似。唐草文様の構成は酷似
文様の彫り加え、簡略化 (アレンジ) などがあるもの … 「同系譜」

比較対象
・聚楽第 …6 類 (図 6) (本 1988・上村 2002)
・大和郡山城…120A 型式 (図 6) (山川 1999)

・照合結果…

「同文異範」 → 聚楽第大名屋敷の屋根瓦と、大和郡山城の屋根瓦の製作には、同グループの瓦工人が関わっている可能性が浮上。
さらに、慶長期 (1596~1615) の法隆寺修理瓦とされる瓦に、同文が！
→つまり、どういうこと？ (図 8)

5. まとめ

- ・聚楽第の大名屋敷の屋根瓦を製作した瓦工人グループの 1 つには、大和 (奈良) の工人グループが存在した。
- ・豪華絢爛、聚楽第の造瓦には、飛鳥時代以来の瓦生産地「大和」からも職人が携わっていた。
- ・今後、法隆寺出土資料や聚楽第本丸東堀出土資料との実物照合が必要。

【参考文献】

佐川正敏 1992 『昭和資財帳 法隆寺の至寶 瓦』第15巻 法隆寺昭和資財帳編集委員会
 中村博司 1978 「金箔瓦試論」
 1981 「金箔瓦試論—補遺—」
 1995 「金箔瓦論考」『織豊城郭』第2号 織豊期城郭研究会
 本弥八郎 1993 「左京北辺三坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概報』(財)京都市埋蔵文化財研究所
 森島康雄 1993 「聚楽第跡出土の軒平瓦」『京都府埋蔵文化財情報』第49号(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
 1994 「聚楽第と城下町の瓦」『織豊城郭』第2号 織豊期城郭研究会
 1996 「聚楽第周辺の金箔瓦—聚楽第城下町復原に向けて—」『京都府埋蔵文化財論集』第3集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
 2001 「聚楽第と城下町」『豊臣秀吉と京都 聚楽第・御土居と伏見城』日本史研究会
 山川均 1995 「郡山城出土の軒瓦について」『織豊城郭』第2号 織豊期城郭研究会
 1999 「大和郡山城の軒瓦」『大和郡山城』 城郭談話会
 中西裕樹 2013 「城郭論における聚楽第の評価」第27回平安京・京都研究集会『聚楽第の再検討』
 馬瀬智光 2005 「聚楽第跡の復元-考古学的考察-」『古代文化』第57巻第2号 古代学協会

【引用文献】

上村和直 2002 「平安京左京北辺三坊四町跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』2002-9 (財)京都市埋蔵文化財研究所
 十文字健 2015 「郡山城天守台発掘調査の概要」『豊臣期の郡山城』第18回こおりやま歴史フォーラム 大和郡山市教育委員会
 森島康雄 2016 「天下人の城、聚楽第・伏見城と城下の金箔瓦」『かわら美術館講演会資料』 高浜市かわら美術館
 山崎信二 2008 「近世奈良の瓦」『近世瓦の研究』 奈良文化財研究所

表1 聚楽第・大和郡山城関連年表

年月	出来事		
	聚楽第	大和郡山城	世の中の動き
天正13 1585		9. 豊臣秀長、入城	
天正14 1586	2. 秀吉、聚楽第築造を開始	本丸・二の丸石垣普請あり。作事も進み、天守の用材を生駒山から切り出すが、完成直前に地震で崩壊。(大和郡山旧記)	
天正15 1587	2. 秀吉、聚楽第で年賀を受ける 9. 秀吉、聚楽第に正式に移る		
天正16 1588	1. 後陽成天皇の聚楽行幸が決定 4. 後陽成天皇、聚楽第へ行幸		刀狩令
天正17 1589		6. 興福寺境内の大小の石を車で郡山で運び出し困る(多聞院日記)	
天正19 1591	12. 秀吉、関白職と聚楽第を甥の秀次に譲る	1. 秀長、死去 豊臣秀保が後継者となる	
文禄元 1592	1. 後陽成天皇の聚楽第へ行幸		朝鮮出兵(文禄の役)
文禄4 1595	7. 豊臣秀次、謀反の疑いで切腹 8. 聚楽第破却、部材を伏見へと運ぶ	4. 豊臣秀保、死去 7. 五奉行の増田長盛が入城	
慶長元 1596	7. 天守をはじめ、柵なども破損(近衛前久書状) 郡山城は崩壊した(ルイス・フロイス、イエズス会日本報告集)		閏7. 慶長伏見大地震
慶長2 1597			朝鮮出兵(慶長の役)
慶長5 1600	てんしゆに金銀を残し…、殿主の三重目へ上がり…(渡辺水庵覚書) 10. 郡山城の建物等を伏見城へ移築(大和記) 増田長盛、改易		9. 関ヶ原の戦い 築城ラッシュ開始(～1615まで)
慶長6 1601			徳川家康、伏見城再建
慶長7 1602			二条城、築城開始
慶長8 1603			2. 江戸幕府、開幕
慶長9 1604			
慶長10 1605		※慶長5年(1600)～元和元年(1615)までの廃城期の詳細は不明 大久保長安→山口直友→筒井定慶	
慶長11 1606			
慶長12 1607			
慶長13 1608		慶長6年(1601)～慶長18年(1613) 大久保長安が3万石で入封(大和郡山旧記) その後山口直友が伏見に存しながら与力36騎を入れる(大和郡山旧記) 山口直友は7年間城番として伏見、郡山をつとめる(郡山御城主記)	
慶長14 1609			姫路城大天守完成
慶長15 1610			名古屋城完成
慶長16 1611			
慶長17 1612			
慶長18 1613			
慶長19 1614	筒井順慶の甥、筒井定慶が1万石で郡山に入る(大和記) 4. 筒井定慶が合戦に及ばず逃亡 郡山を大坂方に放火される(春日社司祐範記)		10. 大坂冬の陣
元和元 1615	7. 水野勝成、6万石で郡山に入る		4. 大坂夏の陣 6. 一国一城令
元和2 1616			4. 徳川家康、死去
元和5 1619	7. 水野勝成、備後福山へ移封 松平忠明、12万石で郡山に入る		
元和9 1623			淀城、築城開始 伏見城廃城

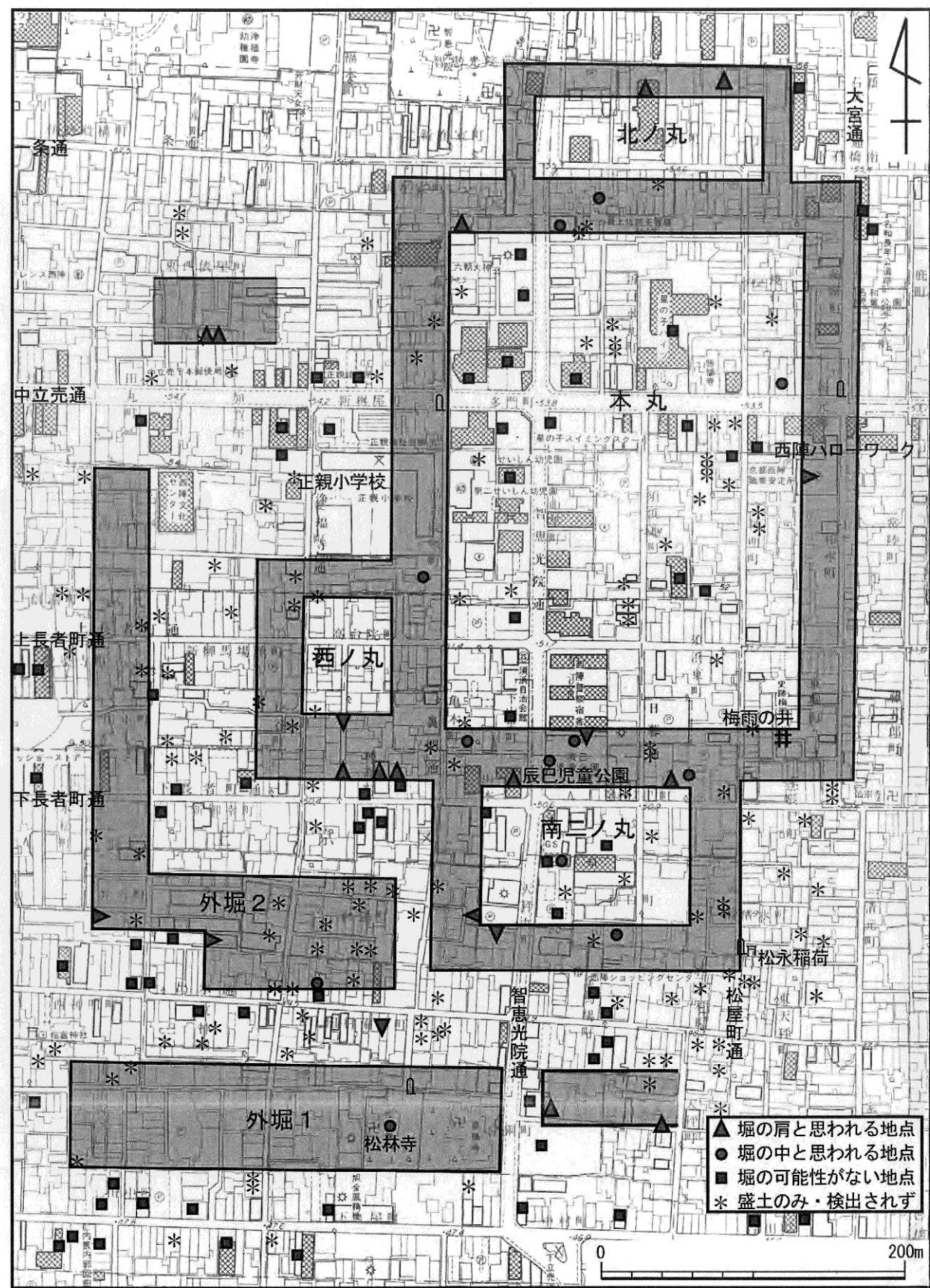


図1 聚楽第復元図（森島2016「天下人の城、聚楽第・伏見城と城下の金箔瓦」から引用）

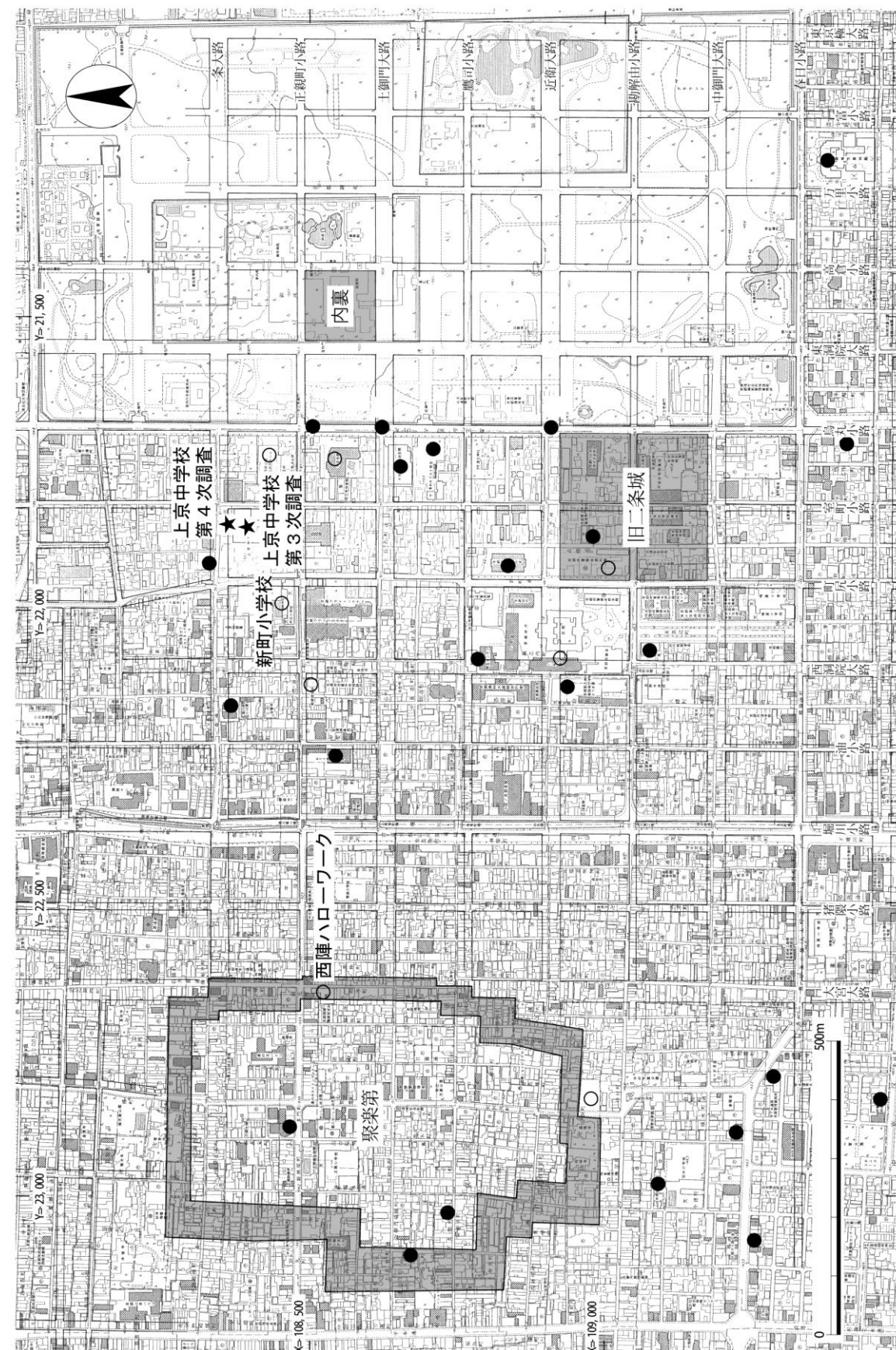


図2：金箔瓦出土地点と上京中学校調査位置図
（上村2002金箔瓦出土地点分布図一部改変）

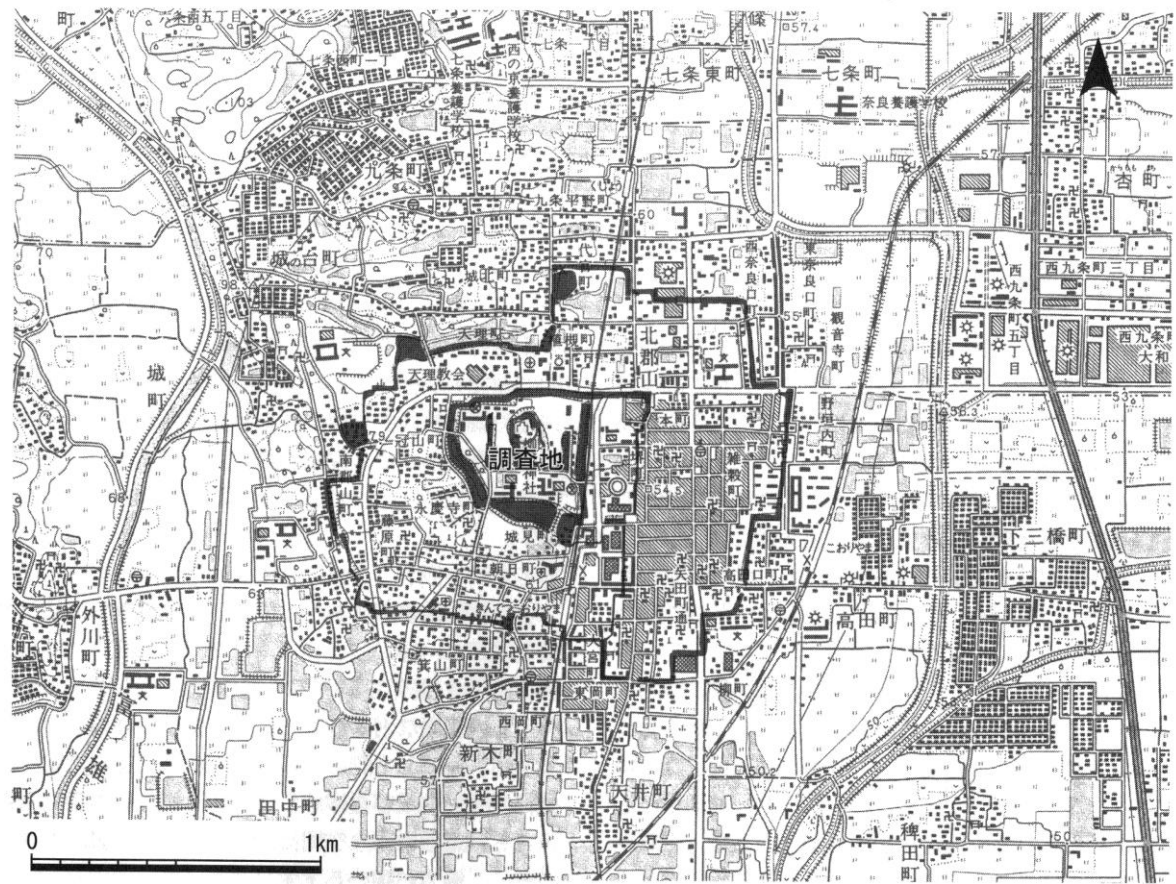


図3：郡山城位置図（1：25000）

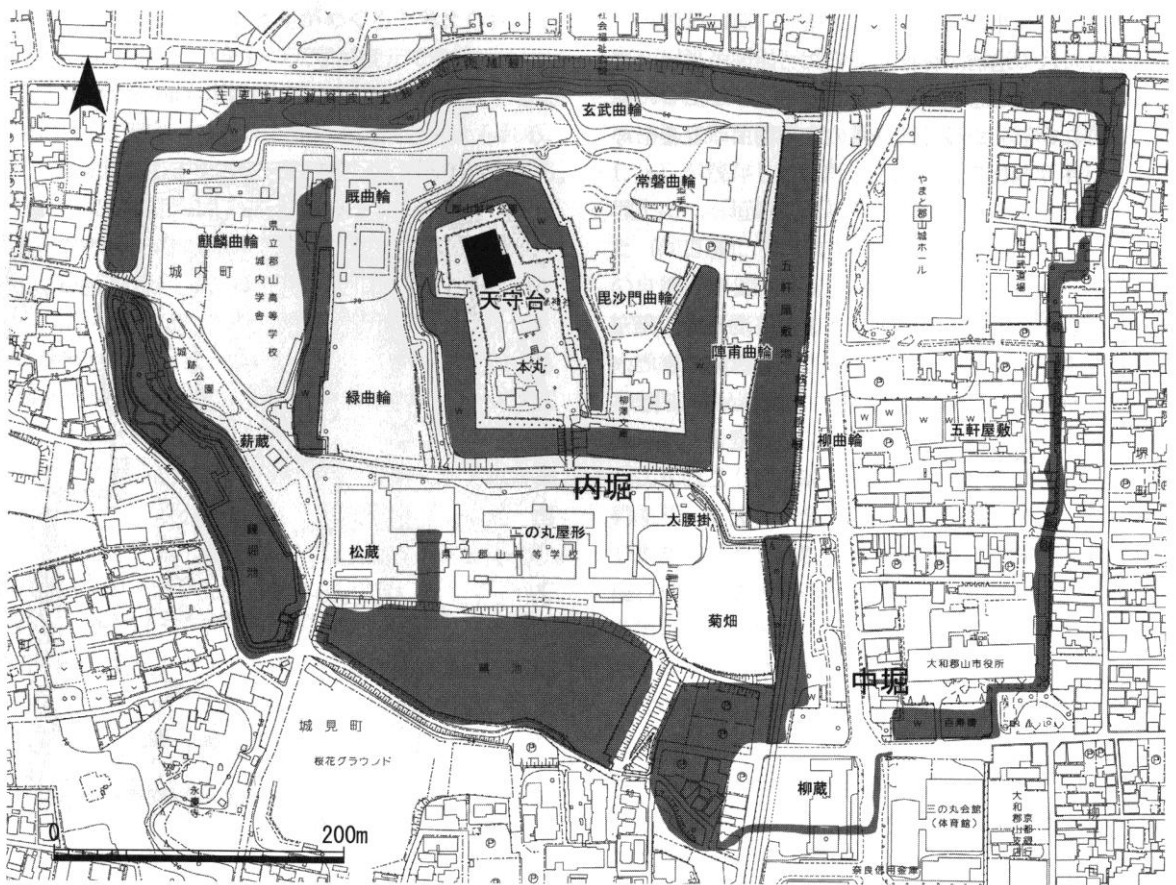


図4：郡山城の中心部と天守台（1：5000）

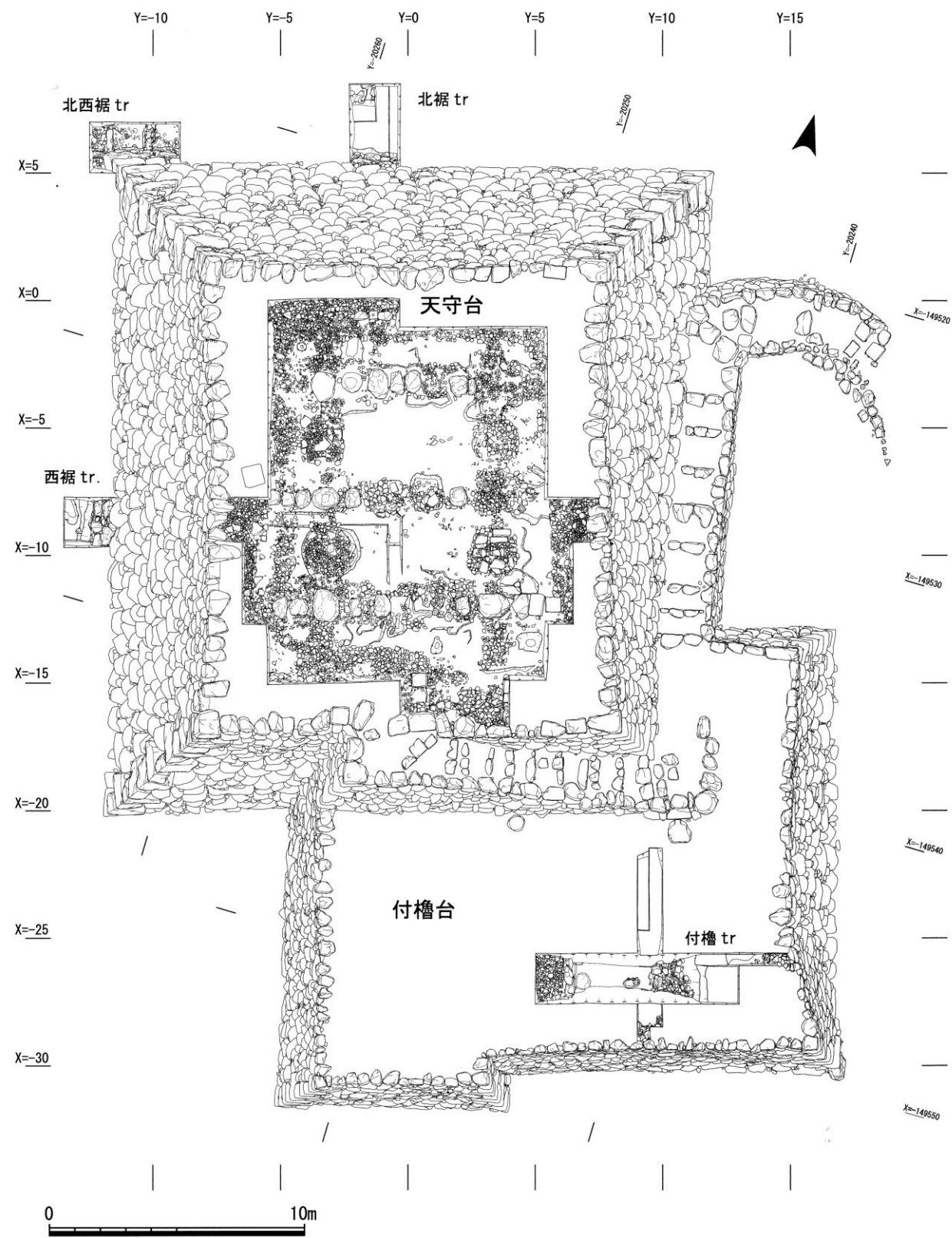


図5：天守台と調査区の位置（1：200）（十文字2015から転載）

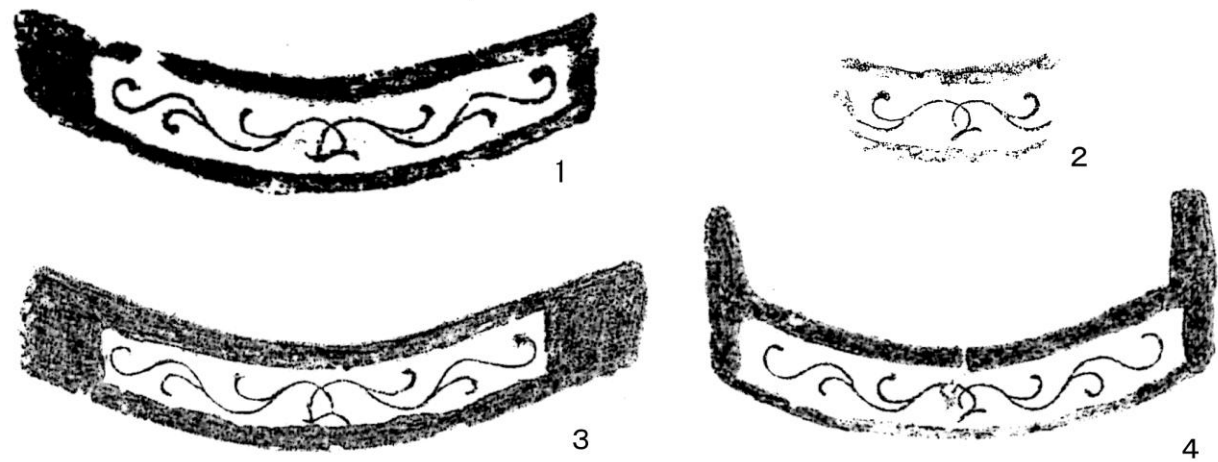


図6 軒平瓦拓本図 (S=1/3) (1: 聚楽第6類 2: 大和郡山城120A型式 3・4 法隆寺)

- 1 上村2002「平安京左京北辺三坊四町」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告書』
- 2 山川2009「大和郡山城の軒瓦について」『大和郡山城』
- 3・4 山崎2006「近世奈良の瓦」『近世瓦の研究』からそれぞれ引用



図7 聚楽第6類・大和郡山城120A型式 中心飾近景 (上: 聚楽第 下: 大和郡山城)

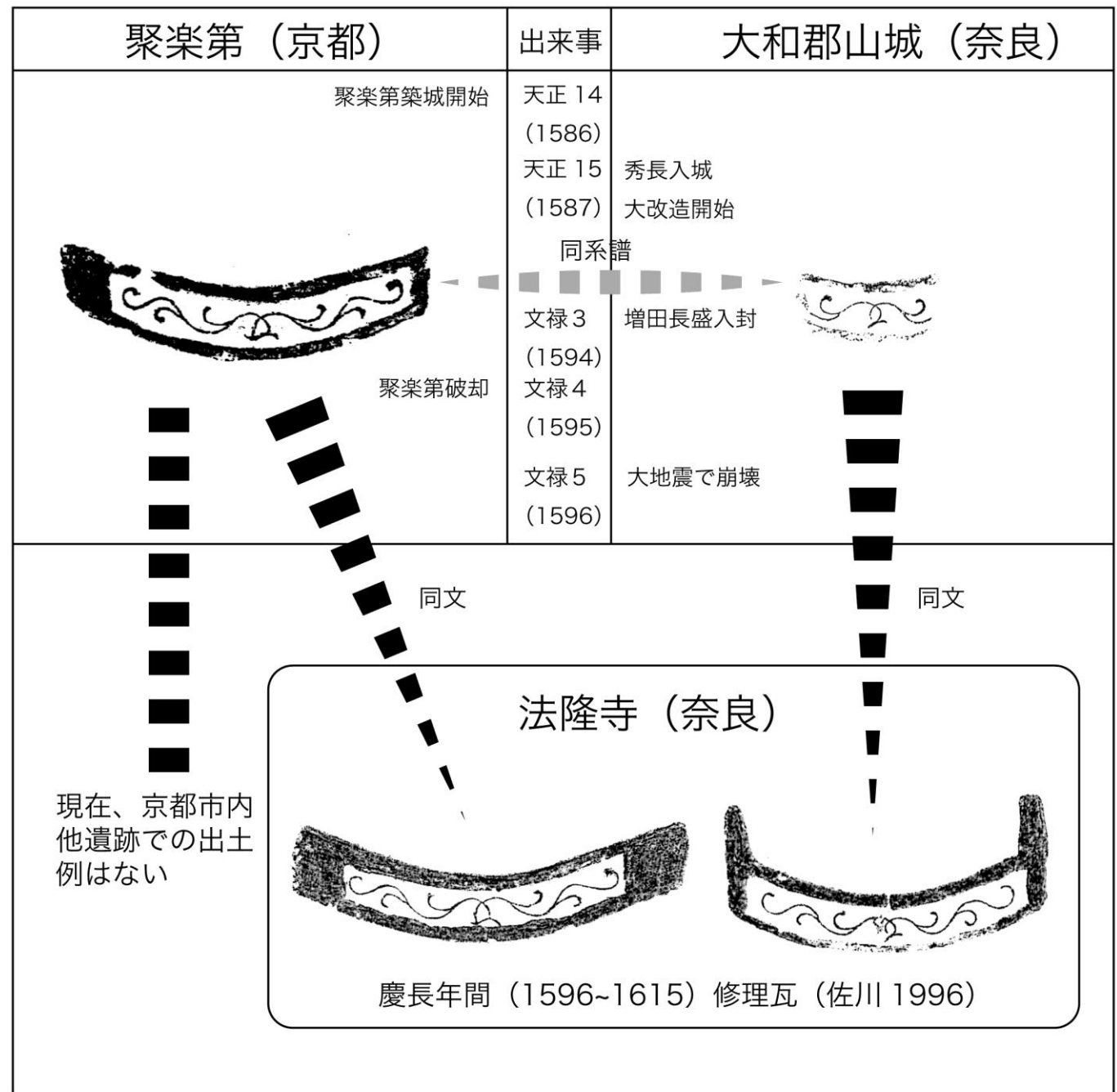


図8 聚楽第出土金箔瓦 (6類) の同範・異範・同系譜の展開 (拓本全て S:1/4)